

住環境調整の歴史（その4）「冷房の歴史」

1. 冷房と空調

1) 冷房

→「屋内を涼しくすること。⇔暖房。」（『大辞林』より）

→「室内を冷却すること。⇔暖房。」（『広辞苑』より）

2) 空調＝「空気調和」(Air Conditioning)

→「対象とする空間の空気の温度 湿度 清浄度 気流分布を，その空間内で要求される値に合うように，同時に処理するプロセス。」（空気調和・衛生工学会の定義）

→「空気調和とは，空気中の水分を増すか減らすかによって，空気の湿度を制御することである。次に，空気の加熱または冷却による温度の制御，洗浄または濾過による空気の浄化ならびに，空気の動きと換気の制御をいう。」（『空気調和の父 ウィリス・ハヴィランド・キャリヤ』，参考文献 [7] より）

2. 涼しくする方法いろいろ

・古代エジプト

紀元前 25 世紀のフレスコ画には，素焼きの壺に水を入れて，これを奴隷が大きなうちわで扇いでいる絵が残されている。

→壺表面から浸出する水の蒸発により壺内の水を冷却する方法。



図 古代エジプトの蒸発冷却法（参考文献 [1]，p. 74）

・紀元前のインド

蒸発冷却の方法がもっと大規模に行われており，地面に作った多くの浅いくぼみに水を満たし，晴天の夜に大気放射で水を冷却し，ある場合は水の表面に氷の層ができた。

- 古代ギリシャの哲学者アリストテレス（紀元前 384～322 年）
水を沸騰させて、その水を陶器に入れ、夕方に家の屋根の上に置いて夜の冷気にさらす。
そして、翌朝これを陶器ごと穴に収めて、その周りを水で濡らしながら新鮮な草花で包んでおくという方法で、一日中冷たい水を保存していた。
→素焼きの壺は多孔質。中の水がじわじわとしみ出して、その水分が少しずつ蒸発する。
このとき水は気化熱を周りから奪うから冷える。
- 紀元 33 年 ローマのポンペイウス劇場
客席に水路を作って香水の入った水を流した。
- ローマ皇帝のバリウス・アピタス（在位 218～222 年）
夏に邸宅の庭に雪の山を築き、これを吹き抜ける冷風により冷房を行った。
- バグダットのカリフ・マハディ
レバノンからメッカまでラクダで雪を運び、夏の別荘の壁を二重にし、その間に雪を詰めて冷房した。
→レバノンの国名は、地中海から見た山脈の雪の白さから、古代アラム語で laban 「白い」の意味に由来する。レバノン山脈は、2000m 級の山々が連なる。
- 8 世紀頃のバグダットの住宅
屋根裏に大きな氷塊を置き、これを奴隷にうちわであおがせ、天井にあけた穴から冷気を下の部屋に吹き下ろした。強制通風冷房の原型。

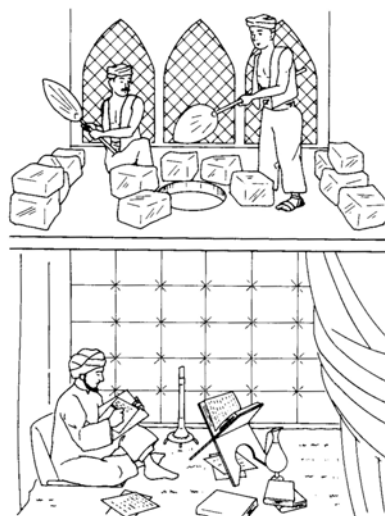
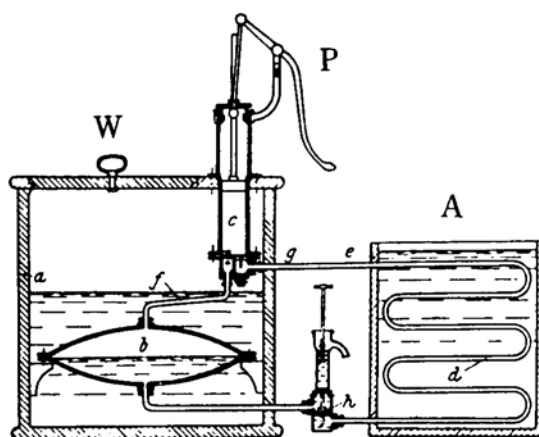


図 バグダットの住宅（参考文献 [2], p. 88）

- ・ 1550 年 ローマ『冷却法』出版（ブラシウス・ビラフランカ）
冷やしたい水を素焼きの壺に入れておき，その周りを塩や硝石（硝酸カリウム）を溶かした水で冷やした。
- ・ 16 世紀 北イタリア
洞窟の冷気を建物に導いて冷房した。
- ・ 1834 年 イギリス在住のアメリカ人のジェイコブ・パーキンス（Jakob Perkins）が機械圧縮式冷凍機を發明
エチルエーテルを使って，圧縮・膨張を繰り返すことによって，冷却作用を生み出す。
ただし，コンプレッサーは手回しであった。



W：コンデンサー，A：エバポレーター（A 中の水を氷にすることができる），h：膨張弁
図 パーキンスのエーテル機（参考文献 [3]，p. 20）

3. 冷房の始まりと空調への発展

アメリカにおける温風暖房技術は，19 世紀末にほとんど完成に近い状態に達していた。温風暖房は冬のためのものであるが，夏にこのダクトを使って室温より低い温度の空気を送風すれば室が冷却，すなわち冷房されることは誰にも考えつくことである。19 世紀のなかばからこの冷房に関する種々の試みがなされた。

1) 井水冷房

イギリスの下院議事堂の暖房設計者のリード (D. B. Reid) は、蒸気コイルの中に井水を通して冷房を行うことを提案した。実施案は後述の氷冷房にかわった。

1880年にはニューヨークのレノックス劇場で、井水を暖房コイルに通して館内を冷房した。これが世界における井水冷房の第1号である。この劇場のファンや空調機はスターテバント社、蒸気コイルに至る蒸気弁を制御する電気式サーモはジョンソン社のものが用いられた。

その後、井水冷房は紡績工場を中心に用いられたようで、1930年頃までは盛んに用いられていた。

2) 氷による冷房

1880年にマディソンスクエアガーデンの温風暖房装置の中に氷ブロックを置き、一晩に4トンの氷を使って冷房した。1881年にアメリカ大統領が夏に病気になったため、病室の送風ダクト内に氷のブロックを入れて冷風を送風し冷房した。

イギリスの下院は蒸気によるカロリファイアで重力循環式の換気を行う方式で、1893年に通風路（ダクト）の途中に木柵を設け、盛夏にはここに氷柱を並べて、通過空気を冷却した。

1890年にニューヨーク音楽堂（カーネギーホール）では、外気取入口に柵を設け、ここに氷ブロックを並べて冷房した（設計者：A. ウォルフ）。

その後、ブロードウェー劇場（1892年）、スタラントン高校（1901年）などにも氷冷房が用いられたが、以上の方式はすべて氷ブロックを空気通路に置く方式であった。その後1907年以降、エアワッシャーが用いられるようになると、氷ブロックをこの内部に入れ、冷水をつくる方法が用いられ、さらに大規模設備では氷ブロックだけを置く室を設け、ここに水をスプレーしてつくった冷水を別の所にあるエアワッシャーにスプレーした。日本の国会議事堂の竣工当時（1936年）の方式はこの方式である。

氷冷房の方法は冷凍機による完全冷房と同様の効果が得られたが、氷のコストが高く、またその搬入の手間が膨大で、ほとんどのものが冷凍機による冷房に代わった。

注) エアワッシャー：

空気洗浄器。冷水を空気の通路に設けられた数多くのノズルから噴霧し、空気を直接冷却するもので、空気の洗浄作用もあわせて行う。39ページの図を参照。

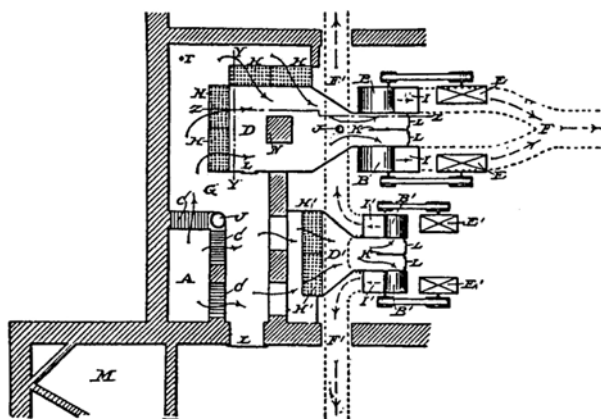


図 カーネギーホールの機械室

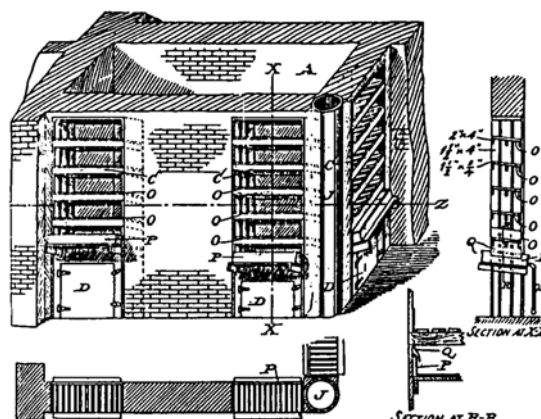


図 カーネギーホールの氷棚

(共に参考文献 [3], p. 153)

3) 冷凍機による冷房（完全冷房）

冷凍機を用いる冷房方式は、イニシャルコストはやや高いが、ランニングコストの点、保守管理の点で氷冷房よりすぐれており、その結果も良好で1910年以降、この方式が定着した。

第1号はイギリスのリンデ社により設計施工されたインド王宮の例で、1887年（もしくは1890年）に施工された。第2号は1893年に（もしくは1892年）に竣工したフランクフルトの住宅で、アンモニア往復冷凍機を用い、小屋裏の断熱箱内に入れた冷却コイルで空気を冷却した。この冷風は重力式で天井の多数の小孔から室内に流下し、冷房した。この方式はファンがなく全外気方式であった。

これ以降の冷房の発達アメリカに移り、この発達の立役者としてウォルフ（Alfred Wolf, 1859～1909年）が活躍する。彼は前述のカーネギーホールの氷冷房（1890年）をはじめとし、カーネル医科大学の解剖室（1899年）、ニューヨークの株式取引所（1902年）、ハノーバー・ナショナル銀行（1902年）、メトロポリタン美術館の収蔵庫（1907年）などの完全冷房を設計施工した。

ウォルフに次ぐ技術者はクレマー（Stuart W. Cramer, 1868～1950年）であり、紡績工場の湿度の制御に大きく貢献した。1906年アメリカ木綿紡績総会で“Air Conditioning”（空気調和）なる言葉を初めて発表したのが、クレマーは「空気調和」の命名者といえることができる。

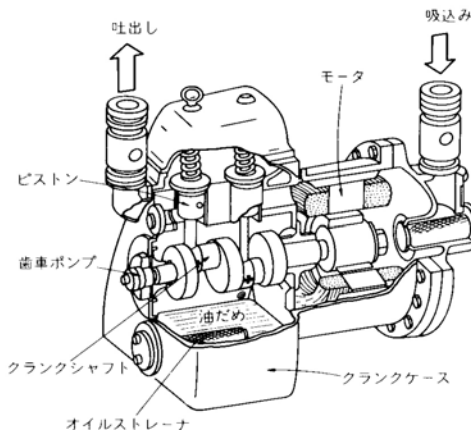


図 往復式圧縮機の例（参考文献 [4], p. 126）

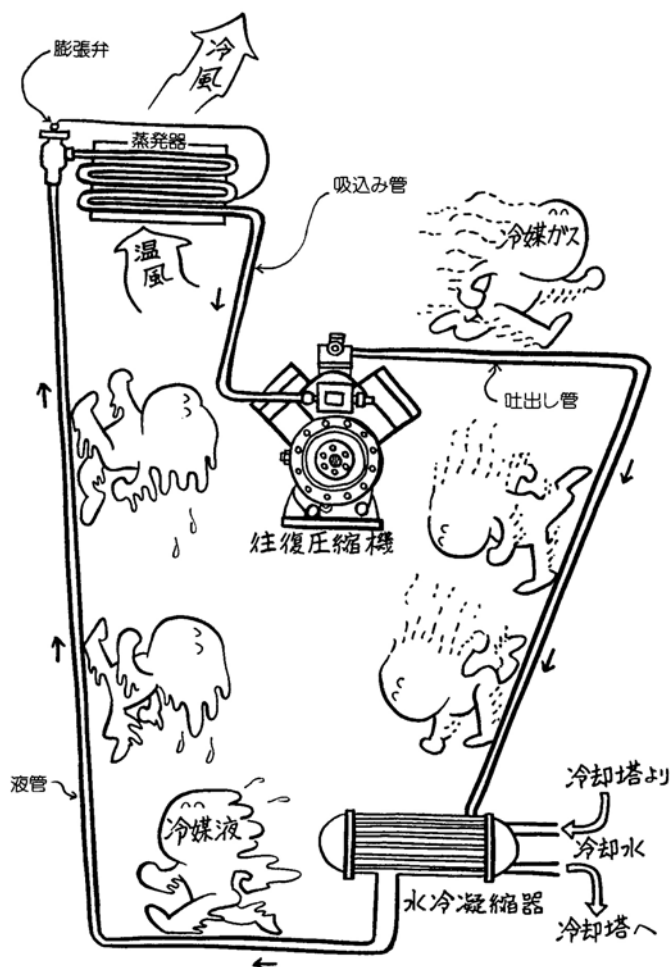


図 圧縮式冷凍機のしくみ（参考文献 [6], p. 101）

4) 空気調和

キャリア (Willis Havilland Carrier, 1876～1950年) は、カーネル大学電気工学科を卒業後、1901年にバッファロー・フォージ社に入社した。同社は、当時のアメリカの3大ファンメーカーの一つである。1902年の春ニューヨークのサケット・ウイルヘルムズ印刷工場の湿度の調整の設計がキャリアの所に持ち込まれた。当時の印刷工場は多色印刷を始めており、室の湿度の変化で紙の伸びちぢみがあり、印刷がうまくゆかなかった。このため室内の相対湿度を一定にすることが要求されたのである。キャリアは、以後、空調技術の発展に大いに貢献した。

→1999年4月には、(株)東芝空調・設備事業部と米国キャリア社の合弁会社として東芝キャリア(株)が発足した。

4. 日本の冷房・空調の歴史

1) 氷室

- ・氷室：氷を保管するための貯蔵室

『日本書紀』仁徳天皇紀 62 年（374 年頃） 斗鶏野（つげの，現在の奈良県山辺郡）に氷室ありとの記述

「土を一丈余り掘り，厚く茅萩を敷き，その上に氷を置き，草をもって覆ったもの」

- ・延喜式（927 年）によれば，氷池は五カ国に 530 個所，氷室 21 室，従業者 1722 名の直轄事業で，主氷司（もひとりのつかさ）が統括した。
- ・平城氷室神社：献氷祭 1200 年以上も続く儀式（祭神：鬮鷄稻置大山主命（つげいなぎおおやまぬしのみこと）

2) 江戸時代

- ・寛永年間（1624～1644）に加賀藩主前田利常が徳川将軍への献上氷を始めた。
- ・安永 2（1773）年 加賀藩の前田侯が諸大名を招いたとき，雪や氷を使って客殿を”冷装”したのが，わが国の冷房の始まりとされている。

3) 戦前

日本の産業の主力は紡績業であった。紡績工場では，特に湿度の制御（高湿度方向への制御）が非常に重要であったため，空調産業の発展に大きく寄与した。

▽蒸発冷却

1907（明治 40）年 富士紡績の保土ヶ谷工場（小山工場との説もあり）が施工された（日本の空調第一号）。

→バッファロー・フォージ社から輸入された蒸発冷却型のエアワッシャーを備える。

1918（大正 7）年 日本人の設計施工により相模紡績平塚工場などに蒸発冷却式空調が施工された。

→夏季の工場内温度が 35℃以上に上がり，ほとんど用いられなかった。

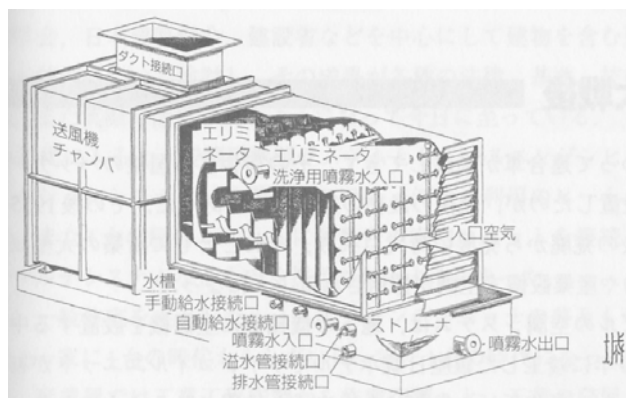


図 エアワッシャーの例（参考文献 [1]，p. 75）

▽井水冷房

1922（大正 11）年 東京モスリン名古屋工場に井水冷房を施工

夏季の室温を 30℃以下にすることに成功

→昭和 4 年の高性能精紡機導入以降，紡績工場では井水冷房が常識的になる。

1923（大正 12）年 日本興業銀行本店に一般用としては初の井水冷房

→ 銀行や映画館で用いられるようになるが，銀行ではカビがはえる問題あり。

▽完全冷房（冷凍機を用いる冷房）

1921（大正 10）年 農務省中野養業試験所に日本初の完全冷房を施工（柳町政之助の設計，ビル
タ社製アンモニア冷凍機）

1922（大正 11）年 帝国人絹広島工場に完全冷房を導入

1923（大正 13）年 小田良治邸に一般用としては初の完全冷房

1927（昭和 2）年 三越演芸場に劇場空調第一号

1930（昭和 5）年 柳町政之助により国産ターボ冷凍機が作られ，これ以後普及した。（製造は，
荏原製作所，日立製作所）

1937（昭和 12）年 三井鉱山四山坑に初の坑内冷房

冷房新設延面積は直接暖房新設延面積の 10 分の 1 の面積のみ → 高級ビルのみ

昭和 12，13 年頃がピーク（昭和 13 年 鉄鋼統制令，昭和 16 年 金属回収令）

▽アドソール冷房

大正末期 理化学研究所が開発した酸性白土を主体とする吸着脱湿材を使用する方法

冷房用の効果が不十分であったうえ，再生時に粉化して，吹き出し口からゴミとなっ
てでてくることもあり，戦後には，完全に姿を消した。

▽ヒートポンプ

ものを冷やすだけことだけに使われていた冷凍機を，ものを暖めることにも利用する場合，冷凍
機と呼ばずにヒートポンプと呼ぶ。

1926（大正 15）年 京都帝国大学教授・大塚要がヒートポンプの理論に関する日本初の論文を發
表

1932（昭和 7）年 兵庫県の村山邸に日本初のヒートポンプによる冷暖房装置が施工

1937（昭和 12）年 当時世界最大級のヒートポンプ設備が，宇治電ビルと京都電灯ビルに施工

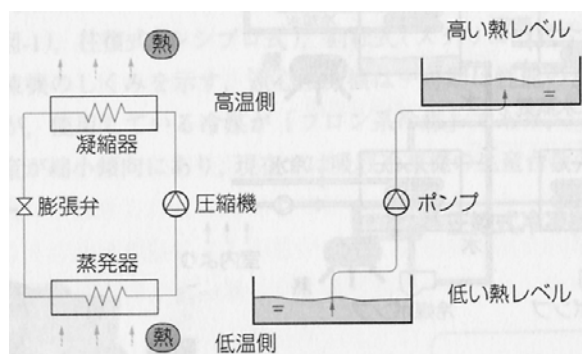


図 冷凍サイクルとヒートポンプ（参考文献 [1], p. 502）

4) 戦後

1951（昭和 26）年 パッケージエアコン，ルームクーラーの生産開始

→ 個別式空調方式の普及（1985（昭和 60）年には，全体の 80%が個別式空調）

1951（昭和 26）年 第 1 次ビルラッシュ → 全館空調

1960（昭和 35）年以降 空調床面積の急増，特に，セントラル空調よりも個別式空調が増加
空調の設計技術および生産技術は，欧米レベルに達した

昭和 40 年代 蓄熱槽の利用が普及する

1970（昭和 45）年 日本初の地域冷暖房 大阪万国博覧会と千里ニュータウン中央地区

1973（昭和 48）年 オイルショック

省エネ技術の進歩

二重ダクト→可変風量

電算機による制御

これ以降，超高層ビルや大空間の空調がはじまる

5. 参考文献（〔〕内は，熊本県立大学附属図書館所蔵情報）

[1] 『図解 空調・給排水の大百科』（空気調和・衛生工学会編，オーム社，1999 年 11 月，¥8,500 + 税，ISBN：4-274-10249-1）〔開架 2，528.2 || Ku 28，0000236021〕

[2] 『建築設備学教科書』（建築設備学教科書研究会編著，彰国社，1991 年 5 月，¥3,495 + 税（絶版），ISBN：4-395-00314-1）〔開架 2，528 || Ke 41，0000249752〕

なお，現在は新訂版（『建築設備学教科書 新訂版』（建築設備学教科書研究会編著，彰国社，2002 年 4 月，¥3,600 + 税，ISBN：4-395-00614-0）〔開架 2，528 || Ke 41，0000275623〕）が出ている。

[3] 『冷凍空調史』（井上宇市，日本冷凍空調設備工業連合会，1993 年 4 月，¥9,500（税込み），

- ISBN：なし）〔開架 2， 533.8||I 57, 0000276509〕
- [4] 『100 万人の空気調和』（小原淳平編，オーム社，1975 年 8 月， ¥3,800+税， ISBN：4-274-08465-5）〔開架 2， 528.2||0 27||1, 0000236339〕
- [5] 『続・100 万人の空気調和』（小原淳平編，オーム社，1976 年 8 月， ¥3,800+税， ISBN：4-274-08466-3）〔開架 2， 528.2||0 27||2, 0000236340〕
- [6] 『イラストでわかる 空調の技術』（中井多喜雄，学芸出版社，1991 年 12 月， ¥2,800+税， ISBN：4-7615-2085-X）〔開架 2， 528.2||N 34, 0000236326〕
- [7] 『空気調和の父 ウィリス・ハヴィランド・キャリヤ』（マーガレット・インゲルス著，東洋キャリア工業株式会社訳，東洋キャリア工業株式会社，1957 年 8 月， 非売品， ISBN：なし）〔開架 2， 528.2||I 54, 0000281881〕
- [8] 『空気調和・衛生設備技術史』（空気調和・衛生工学会編，丸善，1991 年 4 月， ¥9,709+税， ISBN：なし）〔開架 2， 528.1||Ku 28, 0000251173〕
- [9] 『改訂新版 日本冷凍史』（日本冷凍空調学会編，日本冷凍空調学会，1998 年 9 月， ¥9,524+税， ISBN：4-88967-067-X）〔開架 2， 533.8||N 77, 0000277077〕
- [10] 『快適な温熱環境のメカニズム 豊かな生活空間をめざして』（空気調和・衛生工学会編，丸善，1997 年 12 月， ¥4,500+税， ISBN:4-87418-019-1）〔開架 2， 528.2||Ku 28, 0000225353, 0000225354〕
- [11] 『冷熱文化史』（『冷房空調設備』昭和 61 年 11 月号付録，日本冷凍空調設備工業連合会，1986 年 11 月， ¥2,000（税込み）， ISBN：なし）〔所在：書庫（雑誌扱い）〕
- [12] 『新建築学大系 27 設備計画』（新建築学大系編集委員会編，彰国社，1982 年 3 月， ¥5,000+税， ISBN:4-395-15027-6）〔開架 2， 520.8||KE1||27A, 0000086802〕，〔開架 2， 520.8||Ke 1||27, 0000263170〕
- [13] 『日本建築設備年譜』（空気調和・衛生工学会編，空気調和・衛生工学会，1973 年 1 月， ¥3,000+税（2005 年 5 月現在絶版）， ISBN：なし）〔開架 2， 528||Ku 28, 0000251183〕
- [14] 『家電製品にみる暮らしの戦後史（改訂第二版）』（久保允誉，ミリオン書房（2002 年 1 月にネオ書房と改称），1994 年 9 月， ¥2,718+税， ISBN:4-943948-46-4）〔開架 2， 592.4||Ku 11, 0000283698〕
- [15] 『日経トレンドィ ムック トレンド歴史絵巻 昭和初期から 21 世紀まで』（奥井 真紀子，日経ホーム出版社，2003 年 12 月， ¥952+税， ISBN：4-931421-42-3）〔所蔵なし〕
- [16] 『炎で冷やした半世紀 未来を創る吸収式冷凍機』（日本冷凍空調学会編，日本冷凍空調学会，2002 年 3 月， ¥4,762+税， ISBN：4-88967-077-7）〔開架 2， 533.8||N 77, 0000283763〕
- [17] 『炎と水と風 吸収冷凍機物語』（久保三郎，石油化学新聞社，1995 年 9 月， ¥3,000+税， ISBN：なし）〔所蔵なし〕
- [18] 『ヒートポンプ空調システム』（電力空調研究会編，オーム社，1992 年 3 月， ¥4,600+税

- (2005年5月現在在庫切れ), ISBN: 4-274-10140-1) [開架2, 528.2||D 59, 0000219614, 0000219615, 0000219616]
- [19] 『改訂4版 空気調和ハンドブック』(井上宇市編, 丸善, 1996年1月, ¥4,200+税, ISBN: 4-621-04123-1) [開架2, 528.2||I 57, 0000216404, 0000216416, 0000216417]
- [20] 『わかりやすい住宅の設備 暖房と冷房』(空気調和・衛生工学会編, オーム社, 1999年6月, ¥2,800+税, ISBN: 4-274-10236-X) [開架2, 528.2||Ku 28, 0000235940]
- [21] 『図解 建築設備』(武田仁, 森北出版, 2003年9月, ¥2,800+税, ISBN: 4-627-58081-9) [所蔵なし]
- [22] 『はなしシリーズ 賢いエアコン活用術 環境にも家計にもやさしい』(北原博幸, 技報堂出版, 2003年6月, ¥1,800+税, ISBN: 4-7655-4437) [開架2, 528.2||Ki 64, 0000283193]
- [23] 『わかる 小型エアコンの取扱いと修理』(オーム社編, オーム社, 2001年6月, ¥2,900+税, ISBN: 4-274-10274-2) [開架2, 528.2||O 64, 0000255721]
- [24] 『絵とき 建築設備 改訂3版』(吉村武・世良田嵩・小林俊司, オーム社, 2002年8月, ¥2,800+税, ISBN: 4-274-10307-2) [開架2, 528||Y 91, 0000267688]
- [25] 『わかる! 建築設備』(柿沼整三, オーム社, 2001年2月, ¥2,500+税, ISBN: 4-274-10266-1) [開架2, 528||Ka 25, 0000246313]
- [26] 『初めての建築設備』(〈建築のテキスト〉編集委員会編, 学芸出版社, 2000年11月, ¥2,800+税, ISBN: 4-7615-2245-3) [開架2, 528||Ke 41, 0000241793, 0000251822]
- [27] 『「建築の設備」入門 空調・給排水衛生・防災・省エネルギー』(「建築の設備」入門編集委員会編著, 彰国社, 2002年10月, ¥3,000+税, ISBN: 4-395-00641-8) [開架2, 528||Ke 41, 0000265155]
- [28] 『ポイントで学ぶ 建築環境・設備読本』(田中毅弘, 技術書院, 1999年1月, ¥3,600+税, ISBN: 4-7654-3174-6) [開架2, 525.1||Ta 84, 0000263354]

6. 参考 URL

- [1] 講義資料のダウンロード

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/kougi.html/jyuu.html/jyuukan.html>

- [2] 空気調和・衛生工学会ホームページ

<http://www.shasej.org/>

- [3] 日本冷凍空調学会ホームページ

<http://www.jsrae.or.jp/>

- [4] 新日本空調株式会社のホームページ

<http://www.snk.co.jp/>

[5] 高砂熱学工業株式会社のホームページ

<http://www.tte-net.co.jp/>

[6] 三機工業株式会社のホームページ

<http://www.sanki.co.jp/>

[7] ダイキン工業株式会社のホームページ

<http://www.daikin.co.jp/index.html>

[8] 東芝キャリア株式会社のホームページ

http://www.toshiba-carrier.co.jp/index_j.htm

[9] 日本地域冷暖房協会のホームページ

<http://www.dhc.jp.or.jp/index.html>